

立川

11

立川と語ろう 立川に生きよう

November 2012

Écoutez Bien Vol.31 No.336



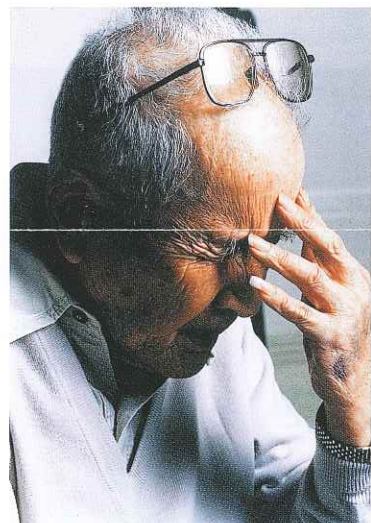
表紙の人／芝田家獅子舞三代(柴崎町)

岡崎さんが語る 立川周辺と人々

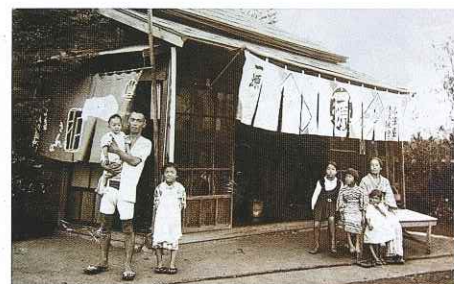
語り：故・岡崎清平さん
(平成15年夏にインタビュー)

北口駅前で伏見屋という料亭を営んでいた岡崎さん。

本村と呼ばれた現在の富士見町や柴崎町は、当時北口駅前からは本当に遠く感じたと言う。文中「陸橋」は山中陸橋のことで、現在は奥多摩街道、中央線の上にかかる橋に移動している。岡崎さんは強制疎開で北口駅前から柴崎町に移り、料亭をやめて市役所に勤務していた。



母親の実家が本村の方にあつて、駅の真ん前にあるなんて言うとお本気にしなくてね。ありゃ嘘ついてるなんて言われたの(笑)。ああ、山中陸橋ですか？ あれあ、本当に木の橋だったんです。



南幸町にあったアイスクリーム屋さん。写っているのは経営していた植源の細野さん一家。昭和初期、立川の人は牛乳に慣れていなくて、都心から来た人が珍しがって買って行ったのだそう。(写真提供：細野功さん)



西の踏切

私なんか貝殻坂(富士見町)なんて行ったことないもの。その時分には新宿へ行くのと同じくらい離れているよね。距離的にはうんと近いけれど、気分的にはそのくらい不便でしたよ。乗り物も何もあるわけじゃないから。私の母親の実家が陸橋のすぐそばで豆腐屋(井上豆腐店)やってたんですが、東盛舎っていう牛舎があつて、そこへおからをもって行くのに、車で行って(北口の)私の家へ寄ってひと休みして帰る時代ですからね。

柴崎町に移ってからはサラリーマンですよ。市役所にいたのよ。外人登録なんかやってたね。社会奉仕というんだか、卓球なんかブームになっていろんな所へ行きましたよ。富士見町の荻野(故・芳廣さん)なんか岡崎って言やあ知らないとは言わないよ。教えた程のことはないけど、当時は他に楽しみがないからね、結構ありましたよ、リーグ戦みたいなのが。市役所の職員の俳句の会も作りましたかねえ。北口つつとね、丸屋っていう呉服屋と、竹の屋っていうお団子屋があつたんです。山川自転車は南に来て、金水は立川の北口をまっすぐ。運送屋さんは丸通。丸通はそこでは貨物やなんかに乗せるのを引き受ける仕事でしたからね、伊藤理容店が入って左側でしょ。日の出屋の饅頭屋は有名です。

私なんかの頃は尋常高等小学校(現在の第一小学校)だもの。両側桑畑の中を歩いて南まで来たんですよ。小学校通りがずうっと桑畑だなんて今の人に言ったって、へえ！なんて言ってるだけだよ。今、真如苑がある辺りなんか、何にもなかった。1クラスきかなかったけど、私なんか多い方で、54人かな。生徒には北口の人は少なかったよね。本村が主だった。山中とかね。中央線ができてから開発されたのが北口だから新しいんですよ。で、また戦争になって疎開してますからね。あんまり歴史はないんです。中村亭の自家だつてこっちの本村の人だつて聞いてますね。

西側の踏切を通過して学校へ行くんです。だから下手な時間なんかに行くと(貨物の)入れ替えなんかあつてね、5分や10分待たされるのは当たり前。入れ替えだなんて言うとも20分から30分待たされたこともありますよ。1時間に1本くらいでした。親父が字を書くのが好きでね、上り12本下り12本の時刻表が家の中に貼つてありました。やがて青梅線ができてね。本数は少なかったけど、踏切は開かなかったね。貨物を入れ替えている間ずっと待ってるんですよ。昔の人は気が長いんだ。何も長い時間だからいいんだよね。今考えたらいい時間というか、のんびりしててね。今みたいにカッカしてないんだもの。

世界の英哲 CINEMA・TWO に!

林英哲が初めて挑戦する映像とのコラボレーション

低音が地鳴りのように迫ってくる。

映像が音の世界に広がりを作った。映画館だからこそその世界。

アコースティック空間——CINEMA・TWO

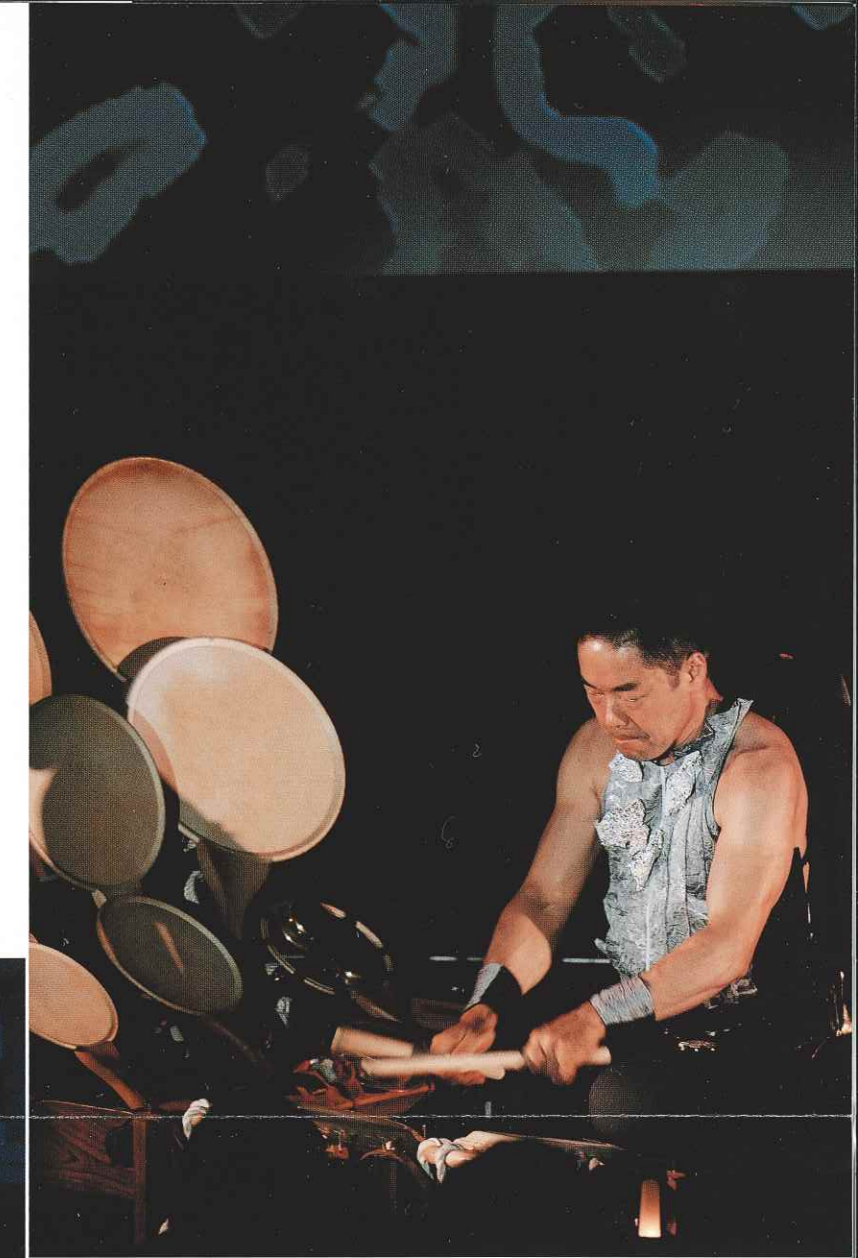
太鼓の世界は微妙だ。郷土芸能とプロの演奏の境目がわかりにくい。神楽や鼓舞の流れを汲む民俗芸能は、それはそれで素晴らしい。むしろ日本人はその演奏に胸打たれるものさを感じる。

しかし、林英哲氏の演奏は、それとはまったく異なる世界だ。どう違うかと聞かれても答えにくいですが、コンサートに行ってみるとよくわかる。

「自分たちの太鼓と違う」と感じた人は、演奏の途中で帰っていく。英哲氏が海外で成功すると、日本の太鼓人口はますます増えたそうだが、その太鼓打ちの何人が英哲氏の演奏を生で聴いたことがあるだろう。

太鼓は音が命。伸びる音。揺れる空間。耳で聴くというよりも、皮膚で聴く、筋肉で聴くような気がする。激しく打たれる太鼓。音が波になって迫ってくる。足下から次々と。音は足から腹に這い上がり、やがて全身を覆って行く。静かに打たれる太鼓。沈黙は、音がない時よりも、この小さな音に集中する時の方が、沈黙を感じる。

「光の門」と題されたライブ演奏のモチーフは、ダンテの神曲。冒頭に英哲氏はこんな台詞を言う。「人生にはいろいろな道があった。そのどの道も正しかった。この歳になればわかる。」スクリーンに映しだされるのは照明デザイナー海藤春樹氏の手になる映像。映像と音が意味するものは勉強不足で不明だが、終わってみたら感動していた。また映画館で、聴いてみたい。



林 英哲

Eitetsu Hayashi (太鼓奏者)

広島県生まれ。

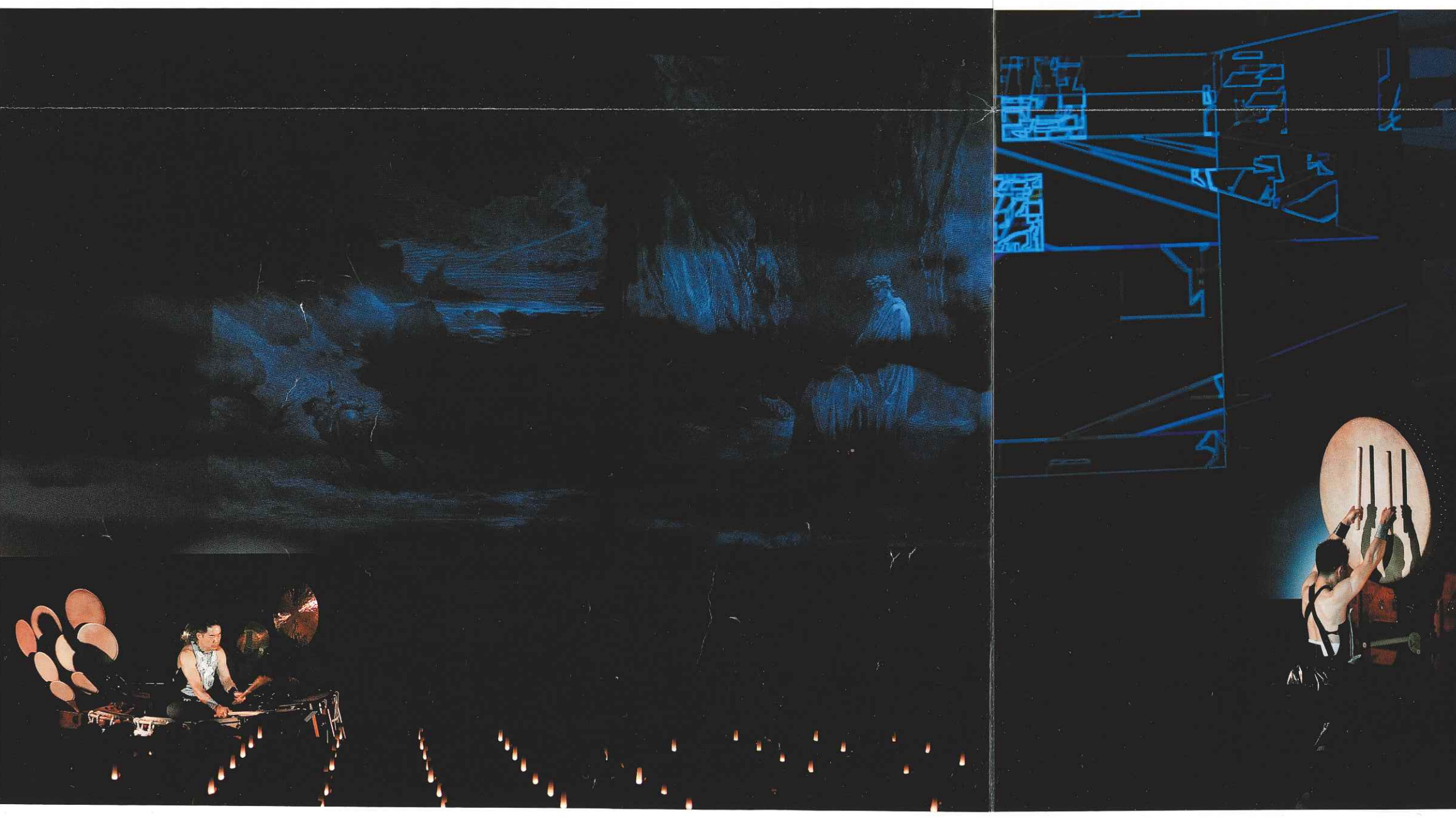
11年間のグループ活動後、82年太鼓独奏者として活動を開始。84年初の和太鼓ソリストとしてカーネギー・ホールにデビュー、国際的に高い評価を得た。以後、ジャンルを超えた世界のアーティストやオーケストラと共演しながら、新しい太鼓の音楽を創造し続けている。2000年にはドイツ・ワルトビューネでベルリン・フィルと共演、2万人を超える聴衆を圧倒させた。2007年ソロ活動25周年記念コンサートを岩村力氏指揮による全曲太鼓協奏曲で企画・構成初演、絶賛を博す。このライブ録音CD「GREAT ENCOUNTER 林英哲 with オーケストラ」を発売。2010年12月サントリーホールで、ソロコンサート「月山」から11年振りに「月山II」を開催、そのライブDVD「月山」「月山II」2枚同時発売。2012年2月演奏活動40周年記念「五輪具〜あしたのために」4日間の連続公演は満員大絶賛を博す。11月17日サントリーホールでアンコール公演が決定。

著書「あしたの太鼓打ちへ」の第2弾「太鼓日月」が講談社より11月発売予定。

97年芸術選奨文部大臣賞、01年日本芸術振興賞受賞。

洗足学園音楽大学客員教授。

オフィシャルHP <http://eitetsu.net>





変化しながら伝統を守る

立川市指定無形民俗文化財 立川市獅子舞芸能保存会

東京都の代表的民俗芸能のひとつ、三匹獅子舞。

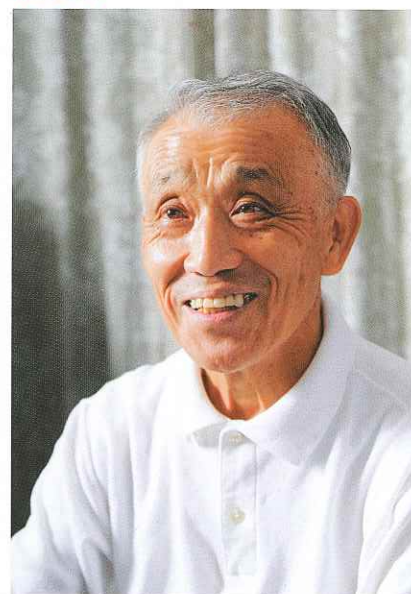
立川では毎年、諏訪神社例大祭に諏訪神社と八幡神社に舞が奉納される。

今年も無事、創始323年の歴史を更新した。



青い法被は諏訪神社氏子総代のみなさん

澤田孝さん



三匹獅子舞は、東京の代表的民俗芸能だ。「獅子の物語」(峰岸三喜蔵写真集)によれば、現在都内69カ所で「三匹獅子舞」が伝統芸能として舞われているという。謂れはそれぞれだが、そのほとんどに天狗が出てくるのが面白い。

例大祭当日、定刻になると柴崎町1丁目にある「獅子宿」に、番場のお囃子と諏訪神社氏子総代たちが揃いの法被で獅子舞を迎えに来る。お迎えに応じて、獅子舞行列は諏訪神社へと向かうのだ。番場とは柴崎町の集落旧名称のひとつ。こうした儀式を踏襲して、元禄2年(1689年)から獅子舞は続いてきた。

儀式やしきたりを守ることが、伝統を継承する大事な要素。例大祭の2週間前から、「初顔合わせの儀」「中祝いの儀」「羽根差し棒巻の儀」「宵宮の儀」と続き、本番の「諏訪神社奉納の儀」と「八幡神社奉納の儀」を終えると、「羽根抜き」の儀、「鉢洗いの儀」を取って来年に備える。

露払いとして道を開き、土俵を清める棒仕は、源頼光の四天王の名を1文字ずつ取り、腹掛けに印す。やがて雄獅子2頭、雌獅子1頭に天狗が現れ、物語を舞い始める。舞は全部で12曲。

獅子宿で初顔合わせの日に



獅子と天狗



棒仕



通して舞うと2時間かかると言われ、現在は1部を省略して約1時間で舞い納める。獅子頭の装飾に付いている鳥の羽は1mもあり、大頭にはそれが150本もついている。全部身につけると約8kgにもなるという衣装。1時間舞うのは大変に違いない。

儀式の形を整える以上に難しいのは人材。立川小唄に「うちの太郎は棒仕」という行があるが、「太郎」とは総領息子。獅子舞の舞子に選ばれるのは、始まって以来長男の特権で、しかもごく限られた地域から選ばれる。棒仕は富士見町の一部から、獅子と天狗は柴崎町の一部からという振り分けさえあるのだ。今の時代、野球やサッカー、さらに塾に習い事が重なれば、たとえ期間は8月のひと月だけだと言われても、舞子のなり手を探すのは難しい。

しきりに幅をもたせて、長男に限らず、地域も幅広く、でも舞は昔のままに伝承して今がある。獅子舞保存会会長代行の澤田孝さんは「戦後は長男に限らなくなりました。獅子舞保存会ができた昭和58年から今の形態になって、棒仕も柴崎町の子がやることもあります」と話す。魅力を知るには、まず観ることから。来年の例大祭にはぜひ諏訪神社土俵へ、どうぞ。

えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。
今月は 若葉町・高松町・曙町 のお店です。

- 若葉町
- スーパー ヤオコー538-1711
 - 米穀・食品 横町屋522-2609
 - 中華料理店 太幸苑527-0906
 - ふじ整体院540-9155
 - ライブハウス Crazy JAM529-9507
 - 創業家 ほしの521-1170
 - レストラン いなつき528-1470
 - ライブ喫茶 炭火煎咖啡はるもにあ521-2959
 - 立川湯屋敷 梅の湯522-3800
 - ヘアサロン イトウ522-6281
 - 進盟ルーム立川0800-800-1405
 - 立川伊勢屋 本店522-3793
 - お菓子工房 ティーコジー526-8143
 - 書籍・雑誌 フレンド書房527-1555
 - サロン・ケベクア美容室527-4716
 - HAIR MAKES たしろ525-2175
- 高松町
- うなぎ しら澤524-5061
 - 久住ハウジング(株)527-8007
 - 不動産 大晋商事525-3110
 - はじめ治療院526-3519
 - ヤマミュージックアベニュー立川523-1431
 - 蕎麦懐石 無庵524-0512
 - TABACCONIST ゼフィルス524-0514
 - ブティック ASHUTE VENI-VENI521-1481
 - ピストロ シェ・タスケ527-5959
 - あら井館総本店522-2957
 - 菊川園 ルミネ店526-1688
 - たましん すまいるプラザ立川0120-667-646
 - 三田花店 ルミネ立川店527-5587
 - KIRIN COFFEE ルミネ店527-2322
 - 立川伊勢屋 ルミネ店524-3395
 - オリオン書房 ルミネ立川店527-2311
 - みずほ銀行 立川支店524-3121
 - コスメドール 辰己屋524-6051
 - エミリーフローグ 本店527-1138
 - キャフェ クリムト526-3030
 - 宮地楽器 MUSIC JOY 立川北527-6888
 - TAKE THE HONEY スイーツ523-8200
 - 三井住友銀行 立川支店522-2151
 - レストラン サヴィニ525-1662
 - 立川献血ルーム527-1140
 - アートルーム新紀元528-6952
 - MOTHERS ORIENTAL528-0855
 - たましん 本店526-7700
 - たましんギャラリー526-7717
 - 和食どころ 若草茶屋526-0010
 - 三上鮎節店522-3259
 - FM たちかわ524-0844
 - 輸入文具 喫煙具 ホワイトハウス525-8558
 - ステンドグラス ばさーじゅ522-1941
 - 時計電池交換 BASE26548-4326
 - はしや528-2338
 - 萬福食堂528-2227
 - ラ・フランス529-5522
 - ビックカメラ 立川店548-1111
 - Charcoal Dining るもん527-3022
 - 酒亭 玉河522-2654
 - 三菱東京UFJ銀行 立川支店524-4121
 - ローソン 立川曙町二丁目店526-7652
 - カフェ アバン527-4479
 - ダイエー 立川店525-0331
- 曙町

街の話題

江戸の表現

——国文学研究資料館1階展示室

江戸時代は面白いです。研究展示ですから、学術的な説明はちゃんとあります。でも、むずかしいことは抜きにして、観に行ってみるのもいいと思います。「日本人の心の琴線にふれるさまざまな作品が展示」されていますから、きっと楽しめるはず。

展示期間 平成24年10月17日(水)～11月20日(火)
開室時間 午前10時～午後4時30分
休室日 10月21日(日)、22日(月)、27日(土)、28日(日)
11月4日(日)、5日(月)、10日(土)、11日(日)



鈴木春信画「中納言兼輔」



扇の草子屏風(部分)

遺物趣向種二編

立川から見える空 ——遠雷

ゲリラ豪雨や雷の多かった9月。立川から遠く茨城方面の雷を撮影しました。



平成24年9月11日撮影

こんなことやってます

——立川南口

「まちゼミ」は「得する街のゼミナール」の略称で、お店の人がちょっとしたコツや技術を教えてくれる講座です。例えばウィッグやヘアピースの上手な付け方や保存法。自転車のパンクお直し法。アルミサッシのお手入れや修理方法にスノーボールクッキーの作り方。介護の疑問にもお答えするし、クリスマスツリーやリースの作り方も伝授するそう。

開催期間は10月30日まで。
お問い合わせ先
立川市商店街連合会 TEL 042-527-2788

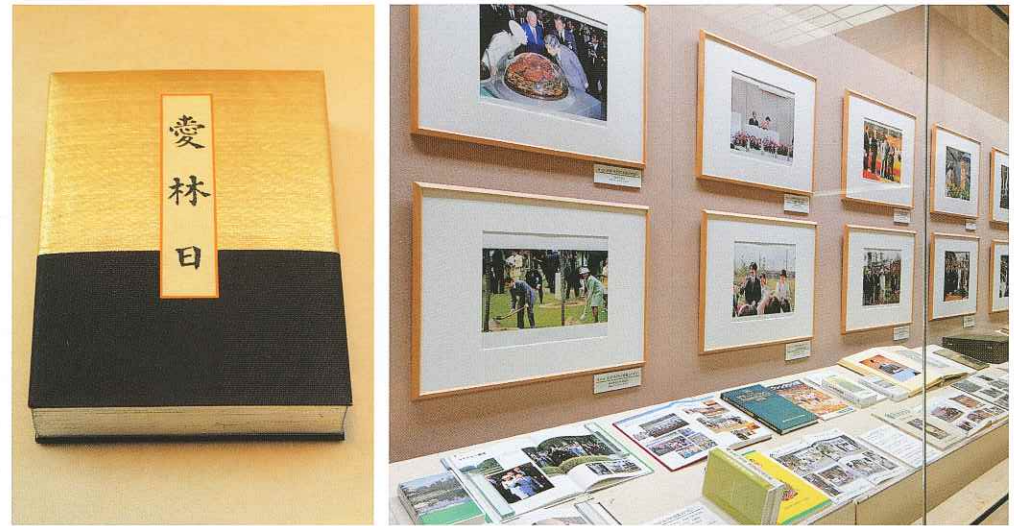
えくてびあん配布先情報です

柴崎町2丁目にあるPIZZERIA CANTERAさんと、入船茶屋さんにも今月からえくてびあん置いてあります。



植樹の記録

第29回都市緑化フェアの一環として、昭和天皇記念館では企画展示「みどりの継承 昭和から平成へ」を開催中。ご幼少の頃から自然に親しまれた昭和天皇により播かれた種が、今上陛下、皇太子殿下へと受け継がれて行く様子がよくわかります。昭和記念公園でのご様子などもご覧いただけます。



「愛林日」は全国植樹祭の前身。昭和9年から19年まで続けられ、戦後22年に再開し24年までの3回を記録したアルバム。

おじゃましま〜す! [7]

中国料理 五十番

麺の太さ、選べます

いまさらえくてびあんで五十番さんを掲載するまでもないのですが、それでもやっぱり五十番! 「うどんラーメン」はここにしかないんです。なにもラーメンにうどんを入れなくても、ですって? 食べてみればわかりますよ。うどんが立川の名産だと、知っている方は黙って食べて、知らない方は知った方がいいです。立川のうどんはいわゆる山うどんとは全然違ふんです。色白でアクが少ないのに、ビタミンやアミノ酸といった栄養価が高い。ちょっとお高いうどんをラーメンに入れて、800円というこのお値段! シャキシャキした食感を楽しみながら、麺も太いの細いの選べる、満足感たっぷりの一品。五十番では化学調味料を一切使っていません。使っているのはチューニアン。なにをいまさらの麺ブーム。五十番ではずっと前から使っている調味料です。地産地消で、体にもいい! だからやっぱり五十番!



立川市錦町1-4-5
TEL 042-522-7472
年中無休 11:00～21:00

表紙の人

芝田時次さん、芝田淳さん、芝田隆亮さん

時次さんは長男ではないのに獅子を舞った最初の人。その甥が淳さん。淳さんの長男が隆亮さん。同じ姓を名乗る一家で三代舞子を務め保存会に在籍しているのは、今では芝田家だけだそう。隆亮さんは就職してしまい、舞えないのが残念なのだとか。

かたこと

◆農産物直売所にある野菜が、立川産でない日もあった今夏。残暑が厳しく雨が降らないので、人参などは種を蒔いても芽が出なかったそうです。降れば降ったの土砂降り、天地の間に住む人間は「ちょうど良く」と願う以外に策はなし。お訪ねしてみてもわかる、農家の皆さんは大変な夏でした。◆映像環境を持つアコースティック空間としてのシネマシティ。ただの映画館では終わらない。音にこだわって飽くなき挑戦は続きます。太鼓の英哲さん。「世界の英哲」なのにもものすごく謙虚な方でした。立川にお住まいの山下洋輔さんとコラボとあって実現しないかな〜。◆お話をうかがうと、同じ獅子舞保存会でも富士見町の方と柴崎町の方では話が微妙に違います。昔は宵宮の夜まで棒棒と獅子や天狗と一緒に練習することはなかったそうですから、相違はあって当然なのかもしれません。今はもう、すっかり1つの感じ。◆岡崎さんの語る立川は今回が最終回。次回からは連載で、未来を築くために知っておきたい昔の立川をお送りします。岡崎さんは粋なしゃべり口でしたが、皆さま、その口調でお楽しみいただけましたでしょうか? ◆えくてびあんは立川市内300カ所以上のお店や公共施設、銀行などに置かせていただいています。今月はまた2カ所配布先が増えました。ありがたいことです。どうぞこれからも、あなたのそばのえくてびあん。よろしくお願ひ申し上げます。

えくてびあん◎

11月号 第31巻 通巻336号

平成24年11月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082
FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男
(WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷 三浦印刷株式会社

無断転載を禁じます。



「愛の妖精」 ジョルジュ・サンド（篠沢秀夫訳）

『心から《ふたっ子》の世話を見、かわいがり、食べものでも
いちばんいいところ、パンの皮、サラダ菜の中のほうとかをやった』

※「細長いフランスパンの皮はカリカリしておいしいのでこどもは中身より皮を好むことが多い。」 訳者注釈

主人公のファデットは頭が良くてお転婆で、それが少々鼻につき皆に煙たがられるような存在。後にファデットに恋するようになっていくランドリーといえども全く例外ではなかったのです。

ランドリーは双子の兄弟の弟。この双子の兄弟はととても仲が良く、兄のシルヴィネは弟のランドリーをファデットに奪われるのではないかと思ひ悩みます。そんな兄弟の愛情を象徴するのが何と「パンの皮」。

一方ファデットは「本当の私を見て」と、思っていたに違いありません。そして自分の頭で考え、自分の意思で成長していくのです。パリパリしたチャーミングな外側も、やさしい内面もどちらも欠かせない彼女の魅力。

主人公のファデットに自身を重ねたと言われる作者のジョルジュ・サンドもまた、そんな人柄だったのででしょうか。そしてパンの皮が好きなのもまた、実はサンド自身なのででしょうか。

茂木志維（八王子市）